

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～

「夢・命・絆」

令和5年度第5号

(通算第20号)

会長 小林 俊之

(文責 野手 裕之)

「令和5年度第5回学校運営協議会」報告

2月28日(水)午後3:30から、第5回学校運営協議会が、第二中学校の大会議室において、委員7名の出席のもとで開催されました。

まず協議に先立って、小林会長より、次のようなあいさつがありました。

年度末にあたり、ご出席いただき誠にありがとうございます。辰年ということで、力強く天にも昇る年になって欲しいと前回お話ししました。一方で、辰年は天変地異の年ともいわれ、年明け早々に能登半島地震があり、被災地の一日も早い復興を望んでいるところです。公立高校の入試も終わって学期末に向けた時期ではありますが、子どもたちがのびのびと楽しい学校生活を過ごして欲しいと思っております。最後の学校運営協議会ということで、学校評価などに建設的なご意見を賜りますよう、よろしく願いいたします。

次第

1. 協議
 - (1) 後期学校評価について
 - (2) 令和6度の学校運営の方向について
2. 報告及び意見交換
 - (1) 令和6年度の行事日程について
3. その他

1. 協議について

(1) 学校評価について

杉山校長から、保護者アンケートについて説明があり、それに基づいて各委員から意見がありました。要点は次のとおりです。

項目	評価	委員からの意見(一部、要旨)
確かな学力	4. 2 (3. 6)	<ul style="list-style-type: none"> ・回収率が高くないように感じました。そのため、評価(判断)するにあたって、どの程度重視すべきか難しく感じます。 ・保護者の意見も大切ですが、何よりも生徒の自主性を尊重することの方が大切ではないか。 ・保護者の理解が十分ではないようですが、単元テストによって学習が習慣化していると感じ、また、学力の向上につながっていると思います。もちろん、課題の改善は必要。 ・テストのための学習ではなく、一人一人が知識を身に着け、探求心をもって学ぶ力をもてる学習の仕組みを構築してほしい。 ・自由な時間は自己肯定感を高めるために必要であるといわれたり、脳科学ではぼんやりする時間も重要であるといわれたりしているの、ローテーション日課によってできた時間が、子どもたちにとって自由な時間となっていて欲しいです。 ・保護者や子どもたちの理解を得られないと信頼関係が崩れてしまうので、情報発信などを通じて学校の取り組みを理解してもらえるよう引き続き取り組んで欲しい。 ・食生活や生活リズムといった規則正しい生活も大切なので、今後も学校でもそういったことに取り組んでもらいたい。 ・これからも、不登校生徒を含め一人一人にきめ細かい対応を続けていくことが大切だと思います。 ・よりよい教育を目指していると感じています。 ・学校での生徒の様子をみていると、いい学校だと感じ、みんなでもっといい学校にしようという想いを感じています。
豊かな心	4. 2 (4. 1)	
健やかな体	4. 0 (3. 6)	
信頼される学校	3. 8 (3. 9)	

*評価は5段階で委員の平均です。下段()は前年度の評価です。

(2) 令和6年度の学校運営方針について

杉山校長から、令和6年度の学校運営方針について、次のような説明がありました。

「夢・命・絆」という学校教育目標は、広く浸透しており、引き続き、この学校教育目標を基本的として、令和6年度の目指す方向は、生徒の主体的な学びと主体的な活動を推進する方策を充実させ、そのために協働していく。

- ・夢の実現への力を育む学校として、個別最適な学びと協働的な学びを充実する。
- ・命を大切に作る心を育む学校として、自己肯定感を高めるための生徒の主体的な活動の推進や道徳教育の一層の充実を図るとともに、規則正しい生活習慣の確立や健康教育を推進する。
- ・絆で結ばれるチーム学校として、情報の発信と共有を充実、課題解決に向けて協働的に取り組む組織の改善、多様性を認め尊重し合う意識を確立する。

そして、生徒一人一人をかけがえのない存在として大切にするとともに、一人一人の力を最大限に伸ばして、未来を拓く喜びと希望を伝えていきたい。

上記の学校運営方針について全会一致で承認されました。

2. 報告及び意見交換

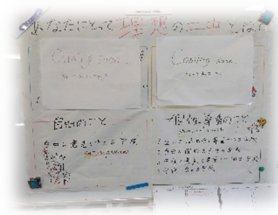
(1) 令和6年度の行事日程について

土曜日登校に対して、部活などで出席できない生徒がでてしまうことに、保護者から意見があり、体育祭の平日開催などを検討しているという説明がありました。学校運営協議会としては、子どもたちにとって負担がなく、楽しく行事に参加できることが望ましいということで、肯定的な見解で一致しました。

第5回学校運営協議会の様子



もっと理想の二中に向けての生徒会のがんばり



小学生を招いてのクリスマス会
みんなで楽しい時間を過ごした素敵なイベントでした

みんなの意見を募集中
いい企画だと感じました

学校支援実践講座（交流会）の様子

1年生の授業で「人とのかかわりあい（学級内の人間関係）」について学ぶ「学校支援実践講座（交流会）」¹が、2月5日（月）、2月6日（火）、2月9日（金）に行われました。

交流会は、5人程度のグループで、架空事例（友だち同士のトラブル）について思ったことや考えたことを1人1人が発表して上で話し合いをする授業で、各グループには地域支援者が入って子どもたちの意見などを共感的・受容的に聞きながら話し合いを進めていきます。

子どもたちからも、地域支援者からも、楽しかったという声が多く聞かれました。



【報告】地域学校協働活動推進員研修講座《3期》

千葉県教育庁主催の地域学校協働活動推進員研修講座《3期》が、1月30日（火）にオンライン開催されました。千葉県CSアドバイザーによる講義と実践発表がありました。

CSアドバイザーによる講義では、石田清彦先生から「地域学校協働本部及び地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）に期待する役割」をテーマに、また、石井智子先生から「地域学校協働活動の実際」をテーマに講義がありました。実践発表では、長南町からは「地域学校協働本部の取組について」、習志野市からは「放課後子供教室の取組について」の報告がありました。



サテライト会場（勤労福祉センター）の様子

¹ 学校支援実践講座は市川市教育委員会がいじめの未然防止を意図した事業で、今年度の二中ブロック（二中、菅野小、真間小）での交流会（二中では昨年度から）は、地域学校協働活動推進員が、二中ブロックに在住している方を中心に支援者を集めて実施しました（真間小では台風の影響で中止になりました）。市川市教育委員会では、より多くの交流会を実施するために、学校支援実践講座の受講者（交流会における地域支援者）を募集しています。多くの方が地域支援者になって欲しいです。市川市教育委員会のホームページ（<https://www.city.ichikawa.lg.jp/edu09/1111000085.html>）をご覧ください。

地域学校協働活動推進員主催「夢・命・絆プロジェクト」 『PUSHコース』の様子

3月2日（土）13時から、二中において、地域学校協働活動推進員主催「夢・命・絆プロジェクト」として、『命』を大切に
する心を育むとともに、救急救命に関する
知識とスキルを習得するための、命の講習会
『PUSHコース』（救急救命講習会）
を開催しました。

「PUSHコース」は、命の大切さを考
えたうえで、心肺蘇生の中でも最も重要な
『胸骨圧迫のやり方とAEDの使い方』に
ついてトレーニングキットを使って練習し、
『だれかが倒れた時に、声をかける勇気』
をもてるように、短時間で効率よく学習で
きるよう工夫された講座です。



参加者から「よかった」というお声を聞くことができ嬉しく思います。
令和6年度も「PUSHコース」を含めて「夢・命・絆プロジェクト」について企画・
運営していきたいと思っておりますので、是非、ご参加ください。

～地域学校協働活動と地域学校協働活動推進員について～

学校と地域住民などが協働して行う、
①児童や生徒に対する学校の授業終了
後や休業日に学校などの施設を利用して
行う学習その他の活動、
②青少年に対する社会奉仕体験活動そ
の他の体験活動、
③社会教育から得た学習の成果を活用
した教育活動その他の活動
のことを地域学校協働活動といいます
（社会教育法第5条）。
なお、文部科学省の「地域学校協働活動
パンフレット（令和元年7月）」では右図の
ように例示されています²。
そして、地域学校協働活動推進員の役割
は、地域学校協働活動の企画・立案、学校
や地域住民、企業・団体等の関係者との連
絡・調整、地域ボランティアの募集・確保
などがあります。



² <https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/190708chiikigakkoukyoudoukatudoupanhuretto.pdf>